

国文学科の紹介

◇国文学科ってどんな学科ですか

都留文科大学の国文学科は、日本の言語と文学を中心として「価値ある知識」を学ぶことを基本としています。言語・文学・文化・歴史・社会に深い関心を持ち、専門的な知識を修得したいと考えている学生を歓迎します。国文学科は、学生の意欲を土台として、国語・国文学を広く深く学ぶことができるよう、それぞれの目的意識を育てます。学生は、知識鍛錬力や分析力、考察力を磨き、言語と文学を中心とした研究を軸として、深い教養と人間性を身につけることとなります。卒業後は、日本の言語と文学の専門的な知識を力とし、日本はもとより世界とつながることができるように育ててほしいと考えています。

◇国文学科ではどのようなことが学べますか

国文学科では、学生の多様な興味・関心に応えることができるよう、いくつかの専攻を設定しています。

○国語学分野

国語学分野は、音韻論、語彙論、文法論、文体論などを扱います。古典語（奈良・平安時代から江戸時代までの言語）、現代語（明治時代以降、現代語に通じる言語）があるので、どちらかの専攻を選ぶことになります。

○古典文学分野

古典文学分野は、高校で学んでいる古典文学について、より深く専門的に研究します。時代によって分野が分かれています。

上代 — 飛鳥・奈良時代に成立した作品を対象とします。

『古事記』『万葉集』など。

中古 — 平安時代に成立した作品を対象とします。

『古今和歌集』『源氏物語』など。

中世 — 鎌倉・室町時代に成立した作品を対象とします。

『平家物語』『新古今和歌集』など。

近世 — 江戸時代に成立した作品を対象とします。

『おくのほそ道』『曾根崎心中』『雨月物語』など。

○近代文学分野

近代文学は、明治時代以降に成立した作品を対象とします。作品のジャンルで専攻を決めています。詩歌系列、小説系列、思想系列に分かれます。

詩歌系列 — 近代の詩人・歌人が表出した表現世界を研究します。

小説系列 — 近代・現代の小説家が表出した表現世界を研究します。

思想系列 — 近代・現代の評論家、思想家が表現した言説の意味を研究します。

○日本文化分野

日本文化分野は、国文学と外国文学との関わりや、国文学と文学以外の表現ジャンルとの関わり、外国から見た日本イメージなど、「国・文学」の外側にも視野を広げた時に見えるテーマについて研究します。

○漢文学分野

中国や日本で書かれた漢文学の作品を対象とします。ただし、中国文学の場合、中国語で解析するのではなく、あくまでも漢文として取り扱っています。

○国語教育学分野

国語教育は国語・国文学を基礎として成り立っています。国語教育学の意味探究、国語教材研究、国語学習研究などを行います。国語教師の免許を取得するための必修科目も設定しています。

◇4年間をどのように学べばいいのですか

1、2年次は、幅広く共通科目や専門科目の基礎を履修します。教員免許を取得する場合は、1年次から計画的に単位を取得する必要があります。3年次からはゼミに所属して、専門の研究に取り組むこととなります。ゼミによって研究のあり方が違いますが、専門性を高めるために、担当教員の個別指導を受けることができます。4年次には、大学の学びの集大成として卒業論文を完成させます。卒業後の進路を見据えた準備も大事な時期です。

◇都留文科大学国文学科の特徴は何ですか

都留文科大学の国文学科のキャッチフレーズは「日本が誇る言語文化と伝統の本質を問う」です。現在、多くの大学が国文学科という名称を廃し、日本文学科と改称したり、その規模を縮小したりしています。そういう動向の中で、都留文科大学は伝統と実績を背景に、国文学科という名称を堅持し、学問領域を縮小するどころか、現代の国文学科を模索して、世界への発信までも視野に入れていきます。

◇本学科の卒業生は、様々な業種で活躍しています。中でも教職に就いた者が多く、大学から、高校、中学、小学校まで、教師として高い評価を得ています。また、公務員、図書館司書、企業の他、出版関係や塾教師など、その進路は多様です。

◇「日本が誇る言語文化と伝統の本質を問う」ことは、生き方の根幹に関わることです。国際社会の中で、情報社会の中で、自分らしく生きていくことはなかなか困難ですが、国文学科での学びが、きっと人生の支えになってくれるでしょう。

◇都留文科大学国文学科は、充実した専攻内容と実績を確立していることに誇りを持っています。ぜひ本学科の扉をたたいて、将来への希望を育んでください。